

【第17回年次大会 パネル・ディスカッション：文化テキストとジェンダー 要旨】

ジェンダーの視点から読む『不思議の国のアリス』
——大人の女性と少女の描かれ方

夏目康子

ルイス・キャロル作『不思議の国のアリス』(1865)には、子どもの登場人物はアリスしかいない。他の登場人物は大人の間人か、動物たちである。主要な女性の登場人物は、ハートのクイーンと公爵夫人である。本発表では、7歳のアリスとこの2人の成人女性の描かれ方に注目し、特に成人女性が本文と挿絵でどのように描写されているのかを検討した。

主人公であるアリスのモデルは、作者ルイス・キャロルが数学講師として勤めていたオックスフォード大学クライスト・チャーチの学寮長の次女アリス・リデルである。批評家マージョリー・N・アレンは、アリスの描かれ方について、「アリスはジェンダーを超えている。作品において、アリスは救出を待つヒロインというよりも、問題解決を自分で行う女性版ヒーローのようである。キャロルは、一般的に女性のもつとされるステレオタイプの特徴をアリスには与えなかった。すなわち、弱さ、辛抱強さ、臆病、従属などである。アリスは自信に満ち、責任感があり、思いやりがあり、分別があり、問題解決能力がある」(1999: 39)と述べている。アリスは、物語の中で決して後戻りすることはない。困難に出会っても常に前進していく。他者からアドバイスをもらうことはあるが、同行するものはなく、一人で進んでいく。この作品が発表されたのが1860年代であることを考えると、このような自立した少女像は画期的なものであった。

次に、大人の女性について検討しよう。「ハートのクイーン」はマザーグースの唄の一つである。キャロルは、このマザーグースの唄を『不思議の国のアリス』のプロットの下敷きとして使った。マザーグース絵本では「ハートのクイーン」は、若くて美しい王妃として描かれることが多いが、手書きの私家版である『地下の国のアリス』のキャロル自身による挿絵や、『不思議の国のアリス』におけるジョン・テニエルの挿絵では、それとは正反対の、醜く、残酷な女性として描かれている。本文では怒りっぽい女性として描写され、アリスと出会ったばかりの場面では、「クイーンは野生の獣のようで……『首をちょん切れ』と金切り声をあげた」と描写されている。テニエルが描いたハートのクイーンのドレスは、実は、スペードのクイーンのドレスであり、彼女は愛のクイーンではなく、死のクイーンであることを示唆している。このクイーンが始終口にする「首をちょん切れ」もそれを裏書している。キャロルのハートのクイーンは、「ハートの(慈愛の)王妃」ではなく、「残酷な(死の)王妃」である。もう一人の成人女性である公爵夫人も、「首をはねよ」と言う場面があり、またその容貌については、はっきりと「とても醜い」と書かれている。

『不思議の国のアリス』におけるハートのクイーンのモデルについて、キャロルの日記や手紙をもとに考察してみると、『不思議の国のアリス』に登場する怒りっぽく、残酷なハートのクイーンは、キャロルと少女たち、あるいはリデル夫人をも含む大人の女性との交流に監視の目を光らせ、しばしば妨害することもあったヴィクトリア朝社会の窮屈さを具現化したものと考えることができる。その意味では、テニエルの描くハートのクイーンの姿が、ヴィクトリア女王にも似ていると指摘するマイケル・ハンチャーは、一面をうまく言い当てている。

アリスと出会う場面の挿絵では、ハートのキングは立体感のないフラットな姿で描かれているが、クイーンは影がついて立体感があり、絵の前方に位置している。「首を切れ」が口癖のハート

のクイーンは登場人物の中でも性格が際立っており、一方、ハートのキングは影がうすい。物語において、クイーンは処罰担当、キングは赦免担当でもある。体面を重んじるヴィクトリア朝社会では、規範遵守を見張り、破ったものを処罰するのは、主に女性だったことをエコーさせている。

以上のように、主人公のアリスは、自立し、問題解決能力のある、常に前進する少女であるのに対し、ハートのクイーンと公爵夫人は、短気で、残酷で、醜く、人間的魅力に欠ける人物として描かれている。この作品では、「成人女性」と「少女」は、人物造形においても挿絵においても非常に異なった扱いがなされている。

[参考文献]

- Allen, Marjorie N. *What Are Little Girls Made Of?: A Guide to Female Role Models in Children's Books*. New York: Facts On File, 1999.
- Cohen, Morton N. *Lewis Carroll: A Biography*. New York: Alfred Knopf, 1995.
- Hancher, Michael. *The Tenniel Illustrations to the "Alice" Books*. Ohio: Ohio University Press, 1990. M.ハンチャー、石毛雅章訳『アリスとテニエル』東京図書、1997年
- Leach, Karoline. *In the Shadow of the Dreamchild: The Myth and Reality of Lewis Carroll*. London: Peter Owen, 1999.

(なつめ やすこ・青山学院大学講師)